



図書たより

NO. 19

Nov 2016

明治大学中野図書館

図書館員オススメの本

【川村静児著『重力波とは何か：アインシュタインが奏でる宇宙からのメロディー』幻冬舎，2016】



2016年2月11日(現地時間)、アメリカで「重力波」の直接検出に世界で初めて成功するという大ニュースがあった。カリフォルニア工科大学とマサチューセッツ工科大学が中心となって建設した「LIGO(ライゴ)」という観測所でのことである。重力波は、1916年にアインシュタインが一般相対性理論によってその存在を予言したもので、太陽のような恒星の末期の「超新星爆発」、あるいは「中性子星連星」などが波源として期待されてきたが、100年たってようやく直接検出されたのだ。

著者はこの分野の専門家で、アメリカで共同研究もしてきた。日本では、スーパーカミオカンデのある岐阜県神岡町に「KAGRA」という重力波望遠鏡が2010年に着工され、現在本格的運転に近づいている。また、宇宙空間に作る重力波アンテナ「DECIGO」の計画があり、後発ながらの利点を活かして期待がふくらむという。それは、「ダークマター」、「余剰次元」の存在、究極的には「宇宙の始まり」すら確認・発見することにつながるからだ。

本書は、初めての人にもほんとにわかりやすく解説してくれて、短時間で読める本だ。著者の息子さんによるイラストも傑作である。

【小倉崇著『渋谷の農家』本の雑誌社，2016】



おもわず手にとってしまったのはタイトルに惹かれたから。「渋谷」と「農家」の一見すると成立しないような組み合わせである。農業に関心は持ちつつもあくまでも消費者だった著者は、東日本大震災をきっかけに「食べ物を自分で作っている人が、結局は一番強い」と思い、その後あるホウレンソウとの出会いをきっかけに農業コミュニティ「weekend farmers」を立ち上げる。一方で、小豆島に移住しオリーブ農家となった元サラリーマン、有機農法でお茶を栽培する長崎の家族、愛媛でレモンなどの柑橘を作り加工まで行う農家の夫妻など、全国の農家を訪ね歩くようになる。二つの活動のなかで、農業の喜びと難しさを知っていく。都会の真ん中渋谷で畑を作るまでのノンフィクション。あとがきにある今後の取り組みも楽しみだ。

【ギィ・リブ著『ピカソになりきった男』キノブックス，2016】



「もしピカソが生きていたら、彼を雇ったことだろう」この本は天才贗作家ギィ・リブの手記である。手がけた贗作はピカソ、シャガール、ルノワール、ダリ、デュフィ、マリー・ローランサン、フジタ……恐るべきラインナップだが判明しているのは氷山の一角、彼の贗作はいまだに「本物」として美術館に展示され、オークションで売買されている。贗作といえど素晴らしい作品で、鑑定士は「本物」の証明書をつけ、顧客は満足する。それならば本物と偽物の違いは何なのか？ギィのドラマティックな人生と共に、アートとは何なのか、アートビジネスとはどういうものかという事が率直に書かれている。

【杉田明子、佐藤剛史著『中高生のための「かたづけ」の本』岩波書店、2014】



「かたづけ」ってなんだろう？なんのためにするのだろう？—中高生のみならず、大人にとっても大切な考え方を丁寧にわかりやすく教えてくれる。「かたづけ」も自転車の場合と同じで、習っていないのだから、練習していないのだからできなくて当然。本著で薦められているのは「かたづけ」のトレーニングをすること。ここで提示される方法は、「出す→分ける→選ぶ→収める」という4点のみで、特に重点が置かれているのが「選ぶ」こと。著者曰く、「選ぶ」という作業で大事なものは捨てるものを選ぶのではなく、必要なものを選ぶことです。」至極真っ当な意見に、目を開かれる思いがした。この必要なものを自分自身で選ぶ力が、人生にとっても役に立つというわけだ。これから社会に出るみなさんにも、是非お薦めしたい一冊。

【森達也著『オカルト：現れるモノ、隠れるモノ、見たいモノ』KADOKAWA、2016】



オカルトジャンルにすればひとまとめにそう呼ばれる現象がある。あるはずのないものを感じる、手を触れずに物が動くなどこの世にありえないはずの現象である。そして、私たちはそれを為すことのできる人のことを超能力者・霊能力者などと呼んでいる。「彼らが言うことは嘘なのか？本当なのか？」という問いは、私たちを退屈な日常の世界から魅力的な非日常の世界へと誘う。本書はその能力を持っている者たちと親しくなりながらも、中立の立場で取材したルポルタージュだ。

著者は前職のTV番組制作時代にオカルト番組の制作に関わったことから、その現象と現象を媒介する能力を持つ者に興味を惹かれていき、取材を重ねる。驚いたのが、ダウジングの実験の章に明治大学が登場するところだ。実は大学や大企業までもがオカルト現象の研究に真剣に取り組んでいるという。はたしてオカルト現象は嘘なのか本当なのか、この本を読めば私達も自ずと真剣に考えてしまうだろう。

冬季長期貸出のお知らせ

☆貸出開始日

大学院生： 11月 30日（水）

学部学生： 12月 8日（木）

（校友・山手線コンソーシアムも学部学生に同じ）

☆返却期限日

全員： 2017年1月11日（水）

（ローライブラリーの貸出期間は、通常通り
1週間です）

